

1 - 1 北海道とその周辺の最近の地震活動 (1982年6月 - 11月)

Recent Seismic Activity in and around Hokkaido (June-November, 1982)

北海道大学 理学部
Faculty of Science, Hokkaido University

この期間の浅発地震の震央分布を第1図に示す。浦河付近に著しく集中している地震は82年3月の浦河沖地震 ($M=7.1$) の余震であり, まだ余震活動が続いていることがわかる (第2図)。

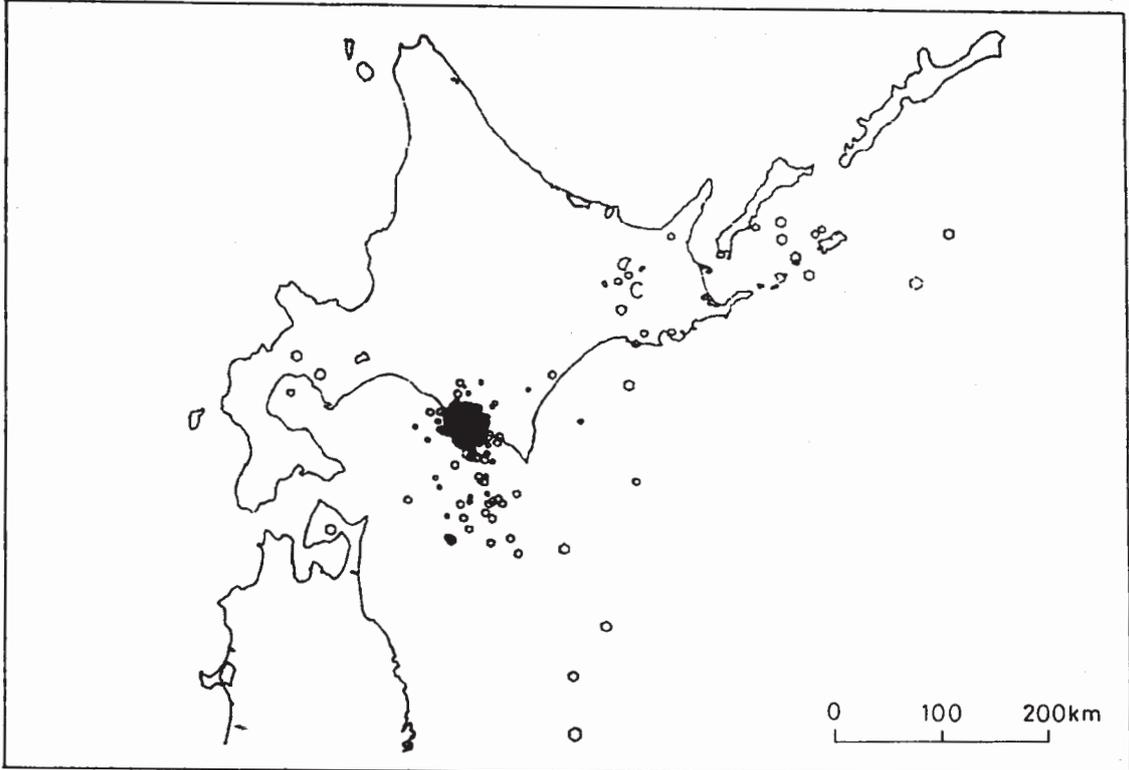
この期間の顕著な地震活動としては9月3日にエトロフ島沖で20個以上の地震が発生した活動があげられる (第1図A)。全体は $M6.2$ および $M5.8$ の地震を各々本震とする2回の「本震-余震」型の活動とみなせるが, 各々の余震活動の時系列は異なっていたことが注目される (第3図)。

内陸の有感地震としては, 8月23日の洞爺湖付近の地震 (第1図B, 前震1, 有珠火山性地震でないことは確実), 10月20日の2回の弟子屈付近の地震 (第1図C) があった。そのほかに稀な地震活動として, 上杵臼でS-P時間が1.8~2.0秒の微小地震が7月18日~22日に計10回, 最大地震 $M1.4$ の群発型の活動があった (第1図K)。

なお, この期間の根室半島沖の活動は大変低調であった。 (本谷 義信)

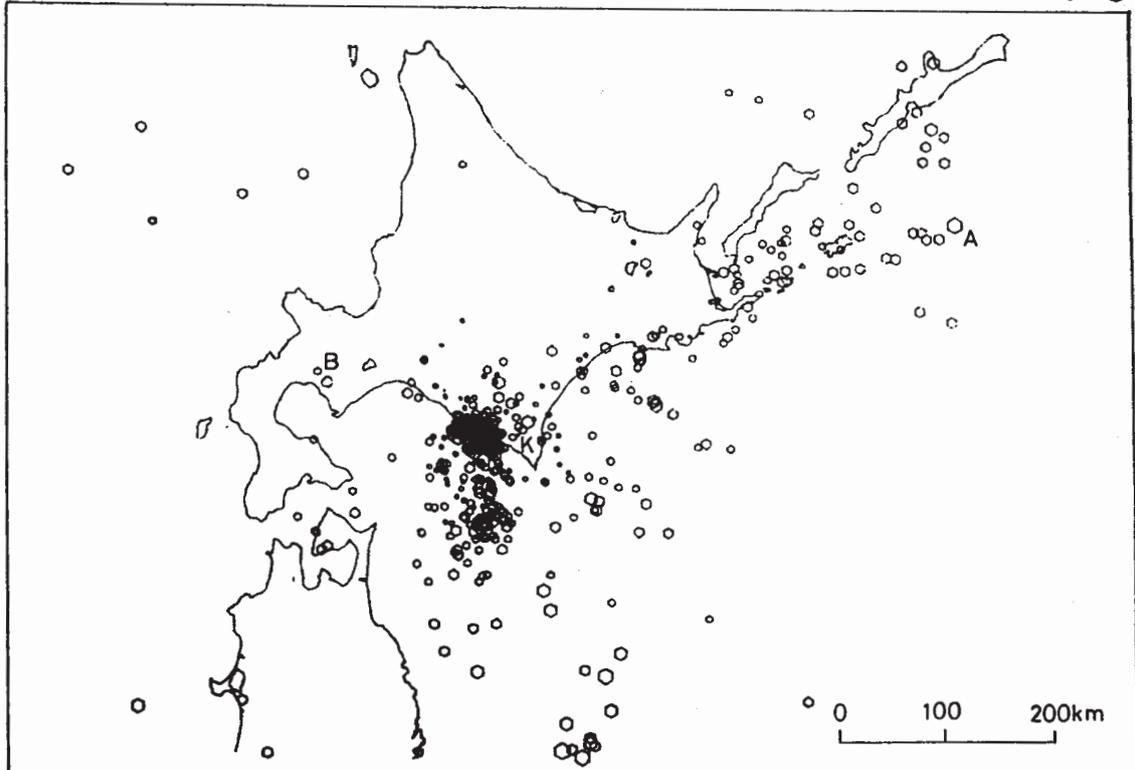
1982 June 01-Nov.30, h=00-30km, N=636

M 1 2 3 4 5 6 7
○ ● ○ ○ ○ ○ ○ ○



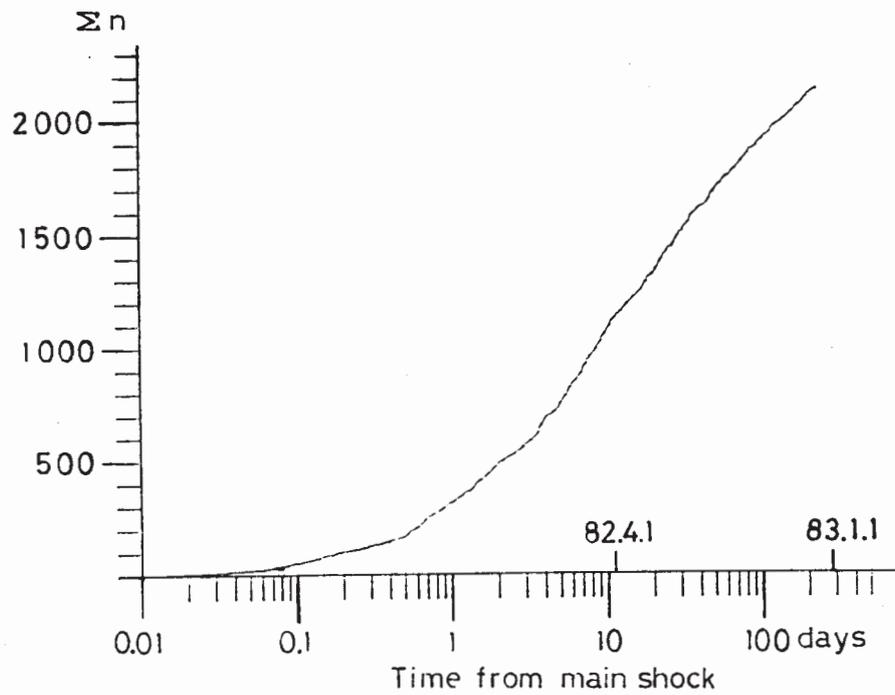
1982 June 01- Nov.30, h=31-60km, N=737

M 1 2 3 4 5 6 7
○ ● ○ ○ ○ ○ ○ ○



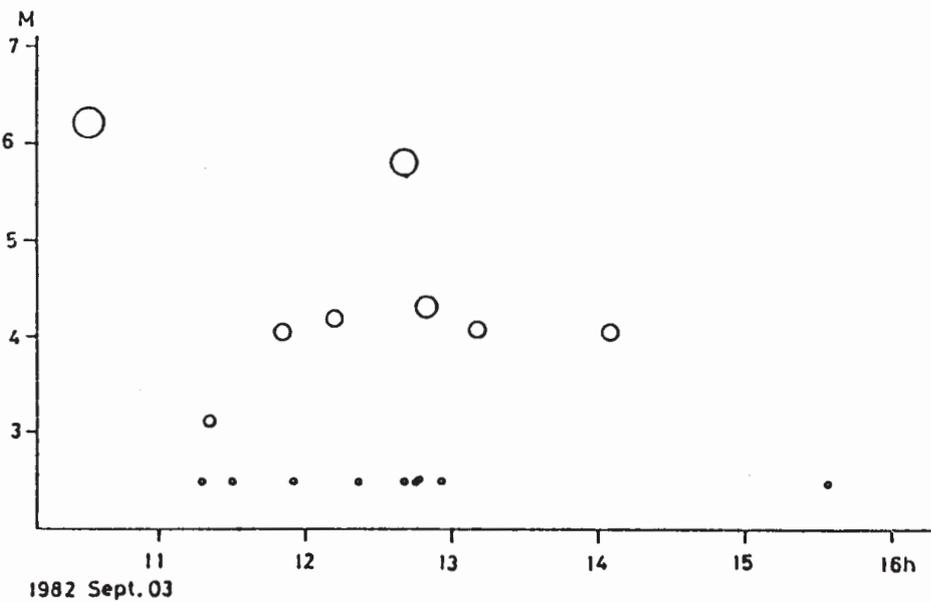
第1図 北海道とその周辺の浅発地震の震央分布。A~C, Kは本文参照。

Fig. 1 Epicenter distributions of shallow earthquakes in and around Hokkaido.



第2図 1982年3月21日浦河沖地震の $M \geq 2$ の余震数の積算曲線

Fig. 2 Cumulative frequency curve of aftershocks ($M \geq 2$) of the Earthquake off Urakawa ($M = 7.1$), March 21, 1982.



第3図 1982年9月3日のエトロフ島沖の地震活動のM-T図
($M < 3$ の地震のMは決めていない)

Fig. 3 Magnitude-Time diagram for a seismic activity off Etorofu Island, southern Kurile (Magnitudes of earthquakes with $M < 3$ are not determined).